

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。無断引用や転載をお断りいたします。  
Copyrighted materials of the authors. Works in progress: Please do not circulate or cite without permission.

## 新型コロナウイルス感染拡大下における芸能に関する学際的研究

2022年度第3回（通算6回）研究会「フィールド調査座談会」

（文責：吉田ゆか子）

2022年11月6日（日）に開催されたこの度の研究会では、通常の研究発表をメインとしたプログラムではなく、各自がフィールドワークをする中で直面した困難や、そしてフィールドワーク中に発見した事柄についてのざっくばらんな情報交換をおこなった。この夏にまとまった調査を行った者も多く、特にコロナ前との調査地の変化、それに対応するために必要となった我々の側の変化、フィールドで感じたコロナという研究対象の特性、またコロナ状況下での芸能という対象を調査する事の難しさや面白さについて共有するということが狙いである。計6名が15分ほどの報告を行ったのち、全体討論をおこなった。前半は海外調査についてのもので、筆者吉田のインドネシア、神野知恵氏の韓国、そしてゲスト参加をお願いした鈴木麻菜美氏のトルコ・欧州での調査についての話があった。後半は国内調査をとりあげ、前原恵美氏による古典芸能や保存技術の調査、武藤大祐氏によるストリップ劇場での調査、そして鈴木正崇氏による御柱祭の調査についての報告があった。

今年度になって多くの場合海外調査が可能になった。海外調査をしたメンバーたちからは、日本国内と海外の調査地ではCOVID-19への理解や対処法が異なっておりその狭間で戸惑う経験や、感染を恐れ調査の手法や機会が限られた例も報告された。また日本国内でも特に初期には、県外への移動が制限されていたり、インフォーマントへの多様な配慮が必要であったケースが報告された。また、現地調査が難しい時期に、オンライン調査や、上演のスタジオ収録など、これまでとは違ったスタイルの研究に挑戦した事例も報告された。こうした調査手法に関わる話題の他、コロナ状況を経ての現地のコミュニティや芸能実践の在り方の変化についての報告も多く行われた。

今回短いながらそれぞれのメンバーの調査の近況や調査対象の様子について互いに情報を共有したことで、地域・ジャンル横断的な考察のアイデアが普段の（2名ほどが重点的に報告するスタイルの）研究会よりも、出やすいという発見があった。そのなかで、たとえばある芸能の上演や伝承はコロナの時期に大きな困難に直面しているのに対し、別の芸能ではそれほど影響をうけていなかったり、何とか活動を維持出来たりしている。こうした違いを作るどのような因子があるのか、事例横断的に議論する機会をつくらうという話になった。